

会議録要旨

(1) 会議の名称	第2回 越前市中心市街地活性化基本計画策定委員会
(2) 開催日時	平成27年7月16日(木曜日) 午後7時～午後9時
(3) 開催場所	越前市生涯学習センター 市民ホール2階 第3会議室
(4) 出席委員氏名	野嶋委員長、金田副委員長、西藤委員、黒田委員、 村田委員、藤谷委員、清水委員、小形委員、坂口委員、 梅田委員、能勢委員、石井委員、内藤委員、河端委員、 長田委員、實田委員、田中委員
(5) 欠席委員氏名	山口委員
(6) 出席オブザーバー氏名	福井県 商業振興・金融課 桑原主任、野澤主査 都市計画課 深水主任 丹南土木事務所道路課 久野課長
(7) 出席所管課職員職氏名	建設部 鎌谷理事、三田村政策幹 都市計画課 平野課長、江端主幹、石本主査
(8) 会議議題	報告事項 (1) 第1回策定委員会会議録 (2) 第1回ワークショップまとめ 協議事項 (1) 中心市街地活性化基本計画改定の経緯 (2) 第2期計画の取組み成果と課題 (3) 第2期計画策定以降の新たな動きから整理される課題 (4) 中心市街地活性化の基本方針 (5) 中心市街地活性化に向けた戦略 (6) 主要プロジェクト総括図
(9) 傍聴者の数	2人
(10) 会議資料の名称	資料1 第1回策定委員会会議録、計画策定体系図 資料2 第1回ワークショップまとめ 資料3 第2回策定委員会資料 資料4 主要プロジェクト総括図
(11) 会議の内容の要旨	<p>1. 協議事項(1)～(3)における委員からの主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎周辺の道路整備について、車も通れないくらい狭い道は逆に危険ではない。歩道を整備すべき道路と車が通るバイパス的な道路との棲み分けを行う必要がある。 ・工芸の里構想の推進は地域の人々が主体となり、行政と連携して進めるモデル事業として期待できる。 ・労働人口が減少しており、どのような層を居住のターゲットにするのが課題である。新婚世帯だけではなく、女性やシングルマザーが住み、働きやすいまちづくりという視点を入れることでIターンの確保にもつながる。 ・いろいろな人がミックスして住む条件が整っているのが中心市街地である。 ・中心市街地の道路線形は今も昔もほとんど変わっていない。これは武生のまちの特性である。 ・歩いて楽しいまちづくりを進めるのであれば、車の流れる道路は最小限にするという理念のもと道路整備を行うべきである。

2. 協議事項（４）～（５）における委員からの主な意見

- ・車社会であることは事実なので、駐車場の整備や運用という考え方も必要である。
- ・中心市街地の利便性を維持するため、戦略的に利便施設を誘致するべきである。
- ・シンボルロードについては松並木等、形の見えるものや観光に寄与する視点も必要である。
- ・中心市街地の人口減は、子どもが成長した時に親と一緒に住まないというトレンドで出ていく結果である。何かを足したら人口が増えるという考えではなて、便利さを保つことによって流出を食い止めることを考えるべきである。
- ・観光は戦略の中の１つであることは確かだが、計画において何に重点を置くかということを検討する必要がある。
- ・低利用地の駐車場化が進んでいる。小規模駐車場を歩行できる距離感で分散化させ、歩けるまちづくりと結びつけてはどうか。
- ・緑の面積が少ないので、駐車場自体を森林化するというアイデアもある。
- ・公共と民間が合体するという戦略も必要である。公共に民間が入ることによって、生産性や経済性を上げるということが戦略になるのではないか。
- ・住み良いまちというのは非常に大事である。住んで元気になるためには、やはり職を増やすことである。新庁舎も利用して、公共と企業の連携というものを一つ戦略に入れて、積極的な攻めをしていくと良い。
- ・官と民が協力しながら中心市街地に利便施設や住宅等を整備していくかが一つの戦略である。官民プロジェクトの推進を組み入れた方が良い。
- ・「越前国府 1300 年の歴史と文化が香る安らぎのまち、武生」というテーマであるならば、これを基にした一貫性のある基本方針を組み立てるべきである。

3. 協議事項（６）における委員からの主な意見

- ・武生東小学校は避難所になっているので、防災道路の確保をお願いしたい。また、小学校と公民館の併設に伴う駐車場の確保もお願いしたい。
- ・歴史あるまちの名前として、武生という名前を残して欲しい。古くても良い建物を残すことは重要である。
- ・工芸の里構想は観光のためだけではない。伝統産業は商売が冷え込んでいるので、商店街、市、商工会議所、大学等と一緒に活性化の取組みを検討したい。
- ・シンボルロードは道路でありながら公園でもあるような計画とし、それにふさわしい名前にする必要がある。
- ・まちなか観光の推進や情報発信を強化する必要がある。
- ・新庁舎建設に頼り過ぎではないか。市役所が残り、建て替わったからといって中心市街地が活性化するわけではない。住んでいる人が活性化を実感するためにも、皆が一致協力して中心市街地活性化に取り組まなければいけない。
- ・歴史も何もない松並木や水路を作るだけでは意味がない。
- ・駅東で居住促進を行うのであれば、東と西を双方向で結ぶ仕組みが必要である。
- ・学生や若者が重視するのは就業の場である。職の強化、起業促進を考える必要がある。
- ・今回の計画で目指すのは住む人の満足度が８割、外から来た人の満足度（観光等）が２割と捉える。施策の比重の置き方を示すべきである。
- ・地域の誇りを基本に考え方を整理し、次世代に繋げることがポイントになる。

(11) その他

特になし